

平成 29 年度 明石市地域自立支援協議会

くらし部会 レポート Vol.26 平成 29 年 11 月 20 日

発行元：明石市地域自立支援協議会 くらし部会事務局（明石市基幹相談支援センター）

住所：明石市貴崎 1 丁目 5 番 13 号（明石市立総合福祉センター 1 階）

電話番号 078-923-9155 ファクシミリ 078-923-9156

【意見投稿用アドレス】 akashi_jiritsushien@yahoo.co.jp

会員専用のメールアドレスをご用意していますので、皆様からの情報提供やご意見をお待ちしています。

くらし部会ワーキンググループ「ハートフルあかし」では、今年度も「障害福祉サービス等従事者向け精神保健福祉研修」を企画、先日基礎編を開催致しました。当日は障害福祉サービス事業所だけではなく、行政機関、民生児童委員、高齢者関係の方など、総勢 63 名が参加され、精神保健に関する学びを深められました。当日の様子と受講者のアンケート結果（一部抜粋）をご報告致します。



講義1 「当事者理解」

今年度は、兵庫県立大学看護学部の川田先生にコーディネーター役としてプログラムを進行していただき、精神障がいの当事者であり、語り部ピア（病気・障がいを正しく理解してもらうために自らの体験を語る当事者活動）でもある、矢野さん、馬場さん、細川さんの3名の方に体験談をお話頂きました。多くの受講者の前で体験談を話すことはとても緊張することだと思いますが、御三方とも堂々とした話しぶり、それぞれに子ども時代や学生時代の話、発病当時のことやその後の治療やリハビリ（回復）の過程、現在の生活や将来の夢などをお話し下さいました。受講者はその発表に真剣に耳を傾け、中には涙を浮かべながら聴き入っている方もおられ、多くの方の心に響くものがあったのではないかと思います。

～受講者アンケートより～

- ・3人とも病気になった事を受け入れ、前向きに話をされており、印象に残りました。
- ・人との関わりの中で皆さん傷ついていらっしゃっても、リハビリしていく過程では周りの支援が必要なんだと改めて感じました。
- ・3人の方が全員、しっかりと自分の意見を発表されている姿を見て感動しました。
- ・忍耐強く、困っている部分を支援する大切さを感じた。
- ・当事者の苦悩、大変さがわかった。
- ・特に話を聞いて貰える人がいたことがよかった、という話が心に残った。
- ・周りの人にどうして欲しいか、どうして貰うと楽になるか等の話をしてくれてよかったです。



講義2「精神疾患の基礎理解」

この研修を始めた平成26年度より4年連続で講師を務めて下さっている明石こころのホスピタルの園先生に今年度もご登壇頂きました。

ストレスや自律神経の働き、脳についての説明の後、統合失調症や認知症発達障害について大変わかりやすくお話を頂きました。精神疾患を正しく理解することは、本人や家族はもちろん、支援者にとっても大切なことです。アンケート結果から、受講者のみなさまにとってこの講義が基礎的な理解の第一歩となり、より高い関心をもって頂けた様に思います。



～受講者アンケートより～

- ・「支える姿勢が時間と共に薄くならない」事が大切というお話が良かった。「何年も変わらない関わり」という事が確かに必要と感じた。
- ・聞いていて楽しく大変興味深かった。精神疾患についてもっと勉強したくなりました。
- ・教科書的な話ではなく、リアルな治療現場の事例からのお話で理解しやすかった。
- ・興味深い話も多く、もう少し長く聞きたかったです。
- ・精神疾患は様々な型で誰がなってもおかしくない症状。心と体のバランスが崩れたときは発症するものもある。病気を詳しく勉強する事で対応の仕方、支援方法も変わってくる事が勉強できた。

当日登壇して下さった園先生、川田先生、矢野さん、馬場さん、細川さん、どうもありがとうございました。また、ご参加頂いた皆様もありがとうございました。今回の研修が、精神障がいのある人たちへの理解促進につながるものであればと思います。

応用編のご案内

日 時 : 11月30日(木) 13時～16時30分
場 所 : 明石市医師会館 3F 多目的ホール

【プログラム内容】

1. 精神障がいの支援の実際
講 師 西村暢宏先生 (関西青少年サナトリウム)
2. 支援者のメンタルヘルス
講 師 川田美和先生 (兵庫県立大学 看護学部)

